

【問1】 A～Eの学生5人における政治学，経済学，行政学，社会学，法律学の5科目の履修状況について次のことがわかっているとき，確実にいえるのはどれか。

【国一般 25年度 69_1*k】

- ア 5人が履修している科目数はそれぞれ3科目以内である。
- イ 政治学を履修している者は2人いる。
- ウ 経済学を履修している者は2人おり，そのうちの1人はDである。
- エ 行政学を履修している者は3人おり，そのうちの1人はDである。
- オ 社会学を履修している者は3人おり，そのうちの2人はAとDである。
- カ 法律学を履修している者は4人いる。
- キ DとEが2人とも履修している科目はない。
- ク Cは政治学も社会学も履修していない。

- 1 Aは経済学を履修していない。
- 2 Aは行政学を履修していない。
- 3 Bは政治学を履修していない。
- 4 Bは行政学を履修していない。
- 5 Cは経済学を履修していない。

【問2】 A～Gの7人が8kmのハイキングコースを歩いた。このコースには，スタート地点から1kmごとに1番目から7番目までの休憩の取れる地点が設置されていた。各人の休憩を取った状況について，次のことがわかっているとき，確実にいえるのはどれか。ただし，A～Gはコースを戻ることにはなかったものとする。

【国一般 28年度 74_5**】

- ア 各人はちょうど3つの地点で休憩を取った。7人のうち，いずれの2人をみても，休憩を取った3つの地点のうち，1つの地点だけが一致した。
- イ 休憩を取った地点が3つ連続したのはAのみであった。
- ウ AとBが最初に休憩を取った地点は1番目であった。またBが最後に休憩を取った地点は5番目であった。
- エ Cが休憩を取った地点は1つ置きであった。また，Cが最後に休憩を取った地点は6番目でFもその地点で休憩を取った。
- オ Dが最初に休憩を取った地点と次に休憩を取った地点とは連続していた。
- カ Eが休憩を取った地点は，いずれも連続していなかった。

- 1 Cは3番目の地点で休憩を取った。
- 2 Dは5番目の地点で休憩を取った。
- 3 Eは4番目の地点で休憩を取った。
- 4 Fは1番目の地点で休憩を取った。
- 5 Gは6番目の地点で休憩を取った。

【問3】 5人の高校生A～Eが、選択科目の地理、化学、生物、美術、音楽の5科目から2科目を選択して、授業を受けている。選択科目の授業は、月曜日から金曜日までの各曜日に1科目ずつ割り振られており、各科目とも2名の生徒が選択している。今、次のア～オのことがわかっているとき、確実にいえるのはどれか。

【地上21年度81_7*k】

- ア AとDは、水曜日に地理の授業を受けている。
- イ Bが選択した科目は、EとDも選択している。
- ウ Cは、月曜日と金曜日に選択科目の授業を受けている。
- エ Eは、化学の授業とその翌日に美術の授業を受けている。
- オ 音楽の授業は、生物の授業の翌日にありCが選択している。

- 1 Aは、月曜日に化学の授業を受けている。
- 2 Bは、木曜日に生物の授業を受けている。
- 3 Cは、美術と生物を選択している。
- 4 Dは、音楽と地理を選択している。
- 5 Eは、木曜日と金曜日に選択科目の授業を受けている。

【問4】 ある課にはA～Fの6人の職員がおり、それらの職員の役職、性別、年齢層について次のことがわかっているとき、確実にいえるのはどれか。

【国Ⅱ23年度82_9**】

- ア 役職については、課長が1人、係長が2人、係員が3人である。
- イ 性別については、男性が4人、女性が2人であり、年齢層については、50歳代が1人、40歳代が1人、30歳代が2人、20歳代が2人である。
- ウ Aは40歳代の男性で、Fよりも年齢層が高い。
- エ Bは男性の係長であり、Fよりも年齢層が高い。
- オ Cは女性であり、Dよりも役職、年齢層ともに高い。
- カ E、Fは係員である。また、FはDよりも年齢層が高い。
- キ 係員は、3人とも年齢層が異なる。

- 1 Aは係長である。
- 2 Eは男性である。
- 3 女性のうちの一人は20歳代である。
- 4 係員のうちの一人は50歳代である。
- 5 課長は女性である。

【問5】 A～Gの7人の小学生が縦に1列に並んでいる。AとFとの間には4人がいて、GとFの間には1人が、Eから1人おいて前にCが並んでいた。次のいずれかの条件が加わると7人の並び方が確定するが、その条件はどれか。【国Ⅱ_14年度 100_1*】

- 1 Aのすぐ後ろはDである。
- 2 Bの前後はEとGである。
- 3 Cは先頭である。
- 4 Dは最後尾である。
- 5 EはAより後方である。

【問6】 ある団地の管理組合では、役員A～Gの7人全員が、ある週の日曜日から同じ週の土曜日までの1週間に限って、1人1日ずつ団地内の見回りの責任者を務めることになり、見回りの責任者を決めたところ、次のア～カのことがわかった。

- ア 役員Aが責任者を務める日は、土曜日ではなかった。
 イ 役員Bが責任者を務める日と役員Cが責任者を務める日との間は、中3日あいていた。
 ウ 役員Bが責任者を務める日の前日は、役員Dが責任者を務める日であった。
 エ 役員Dが責任者を務める日は、月曜日ではなかった。
 オ 役員Eが責任者を務める日の翌日は、役員Cが責任者を務める日であった。
 カ 役員Gが責任者を務める日は、役員Aが責任者を務める日よりも前の日であったが、役員Fが責任者を務める日よりも後の日であった。

以上から判断して、確実にいえるのはどれか。【地上19年度 101_3**】

- 1 役員Aが責任者を務める日は、水曜日であった。
- 2 役員Bが責任者を務める日は、月曜日であった。
- 3 役員Cが責任者を務める日は、土曜日であった。
- 4 役員Dが責任者を務める日は、金曜日であった。
- 5 役員Eが責任者を務める日は、木曜日であった。

【問7】 ある高校において、A～Eの5人は1～5組のそれぞれ異なる組の生徒であり、A又はEのいずれかは、1組の生徒である。A～Eの5人が体育祭で100m競争をした結果について、次のア～エのことがわかった。

- ア Aがゴールインした直後に3組の生徒がゴールインし3組の生徒がゴールインした直後にCがゴールインした。
 イ Dがゴールインした直後に5組の生徒がゴールインし、5組の生徒がゴールインした直後にBがゴールインした。
 ウ 2組の生徒がゴールインした直後に4組の生徒がゴールインした。
 エ 同じ順位の生徒はいなかった。

以上から判断して、確実にいえるのはどれか。【地上20年度 100_2*】

- 1 Aは、3位であり5組の生徒であった。
- 2 Bは、5位であり4組の生徒であった。
- 3 Cは、4位であり2組の生徒であった。
- 4 Dは、2位であり3組の生徒であった。
- 5 Eは、1位であり1組の生徒であった。

【問 8】 A～E の 5 人の身長差について以下のことがわかっている。

- ア A と B の身長差は 2 cm である。
- イ B と C の身長差は 4 cm である。
- ウ C と D の身長差は 2 cm である。
- エ D と E の身長差は 8 cm である。
- オ E と A の身長差は 4 cm である。

以上から判断するとき、確実にいえることは次のうちどれか。【国Ⅱ元年度 110_7*】

- 1 1 番身長が高いのは C か D である。
- 2 2 番目に身長が高いのは A か D である。
- 3 3 番目に身長が高いのは A か B である。
- 4 2 番目に身長が低いのは B か D である。
- 5 1 番身長が低いのは C か E である。

【問 9】 A～E の 5 人が、赤又は白の布地に 1～9 の相異なるいずれかの数字が書かれたゼッケンをつけている。この 5 人のゼッケンの色と数字について次のことがわかっているとき、確実にいえるのはどれか。【国専 24 年度 70_3*】

- ア 布地が赤の者は 3 人であり、白の者は 2 人である。
- イ B のゼッケンの布地は赤であり D の布地は白である。
- ウ B と C のゼッケンの数字の合計は 7 である。また D と E のゼッケンの数字の合計は 13 である。
- エ 赤の布地に書かれた数字はいずれも 5 以上である。
- オ ゼッケンの数字は E が最大であり C が最小である。また、A のゼッケンの数は偶数である。

- 1 A のゼッケンの数字は 3 番目に大きい。
- 2 B のゼッケンの数字は 5 である。
- 3 C のゼッケンの数字は 2 である。
- 4 D と E のゼッケンの数字の差は 5 である。
- 5 数字が 8 のゼッケンの者がいる。

【問 10】 4 組の夫婦と 1 人の独身者からなる A～I の 9 人でテニスをした。次のことがわかっているとき、A の配偶者が行った試合数はいくらか。なお、テニスの試合形式は、すべてシングルス（1 対 1 の対戦）であったものとする。【国 I_19 年度 89_12***】

- ア A は 2 試合を行った。
- イ 試合数 0 の人がいた。
- ウ 自分の配偶者と試合を行った人はいなかった。
- エ 同じ相手と 2 度以上試合を行った人もいなかった。
- オ 独身者以外の 8 人が行った試合数はすべて異なっていた。

- 1 3 2 4 3 5 4 6 5 7